

II 平成 30 年度の実施状況

1 地域志向型の教育カリキュラムの整備・推進

(1) 地域貢献特定プログラムの実施

本COC+における教育カリキュラム改革の中心として、平成 28 年度の新入生を対象として、新規科目の設定と既存科目の充実による「地域貢献特定プログラム」を導入し、地域の資源や産業などを学び、地域への愛着を深め、将来にわたり地域で活躍できる知識や能力を修得することができるよう、地域志向型科目の充実し、実施している。

平成 29 年度から専門教育科目 9 科目を追加し、全 23 科目とした。

平成 30 年度には実施から 3 年を経過し、3 年次修了学生のうち、所定の単位数を満たした 35 名が、初めてのプログラム習得者として認定された。

■名称 「地域貢献特定プログラム」
 ■対象 平成 28 年度以降の入学生に適用
 ■認定要件 地域貢献特定プログラムの科目を 8 単位以上修得した者を、プログラム習得者として認定する。

(認定要件:右表の区分A, Bから各 2 単位以上、C「地域課題演習」または「地域実践演習」から1単位以上、専門教育科目のD及び平成 29 年度追加の科目から 2 単位以上を履修すること)

■科目数 23 科目 (新設科目が 9 科目)
 全学共通系科目 7科目、
 専門教育科目 16科目

■履修学生数 平成 30 年度の履修者は、延数で平成 28 年度入学生が 186 人、平成 29 年度入学生が 478 人、平成 30 年度入学生が 712 人であり、この合計は 1,376人となった。

地域貢献特定プログラムの科目と履修状況

科目区分	区分	授業科目名	ステップ (広島を)	単位数	開設年次 及び学期	履修者数			履修者数				
						H28 年度 履修者数	H29 年度 履修者数		H30 年度 履修者数			計	
					H28 年度 入学生	H28 年度 入学生	H29 年度 入学生	H28 年度 入学生	H29 年度 入学生	H30 年度 入学生			
全学共通系 科目	総合科目	地域再生論入門	知る	2	1・2 年・前期	-	0	22	15	10	50	75	
		創作と人間	〃	2	1・2 年・前期	124	51	85	17	55	68	140	
		NPO論	〃	2	1・2 年・前期	32	0	54	4	3	56	63	
	広島科目	B	広島の観光学	〃	2	1・2 年・後期	56	7	66	7	0	47	54
			ひろしま論	〃	2	1・2 年・後期	229	82	283	6	59	290	355
			広島の産業と技術	〃	2	1・2 年・後期	282	33	199	5	44	201	250
	C	地域課題演習	感じる	1	2 年次	-	60	-	2	52	-	54	
国際学部 専門教育科目	公共政策・NPOプログラム	地域再生論	問う	2	2・3 年・後期	-	77	-	2	19	-	21	
		非営利組織論Ⅰ	〃	2	2 年・前期	-	17	-	5	14	-	19	
		非営利組織論Ⅱ	〃	2	2 年・後期	-	10	-	4	5	-	9	
		交通論	〃	2	2 年・前期	-	10	-	5	13	-	18	
		スポーツ文化経営論	〃	2	2 年・後期	-	26	-	11	60	-	71	
		フィールドワーク論	〃	2	2 年・後期	-	13	-	2	0	-	2	
	多文化共生プログラム		経営史	〃	2	2 年・前期	-	1	-	9	8	-	17
	国際ビジネスプログラム	C	専門演習Ⅰ(地域実践演習)	〃	1	3 年・前期	-	-	-	5	-	-	5
			専門演習Ⅱ(地域実践演習)	〃	1	3 年・後期	-	-	-	4	-	-	4
	情報科学部 専門教育科目	専門基礎科目・専門科目 (学部共通科目)	D	観光情報学	〃	2	2・3 年・前期	-	33	-	33	102	-
インターンシップ				〃	2	3 年次	-	-	-	6	-	-	6
C			地域実践演習	〃	1	3 年次	-	-	-	10	-	-	10
芸術学部 専門教育科目	専門基礎科目	D	アートマネジメント概論	〃	2	2 年・後期	-	38	-	3	34	-	37
			造形応用研究Ⅰ	〃	2	2・3・4 年次	-	0	-	12	0	-	12
			造形応用研究Ⅱ	〃	2	3・4 年次	-	-	-	0	-	-	0
		C	地域実践演習	〃	1	3 年次	-	-	-	19	-	-	19
合計						723	458	709	186	478	712	1376	

当該年次では履修できない科目

■地域貢献特定プログラム修得認定者

平成30年度に3年次を終えた学生のうち、35人が所定の必要単位(8単位以上)を取得し、初めての地域貢献特定プログラム修得者として認定された。学部別では、国際学部15人、情報科学部3人、芸術学部17人となっている。

地域貢献特定
プログラム
認定者の声

国際学部 中原歌苗さん



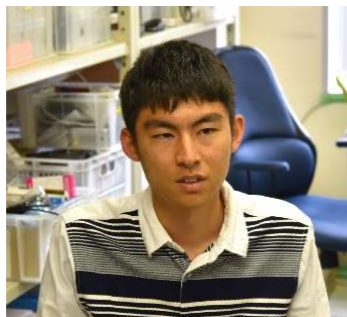
地域理解の方法を学ぶことができた

本学は地域に根差した大学ですので、入学当初から広島についての知識の修得は意識していました。「フィールドワーク論」で、広島市安佐北区をグループで調査し地域理解の方法を学びましたし、「地域課題演習」では尾道のまちを歩き、空き家の問題に意識が向くようになりました。プログラムの一連の学習を通じて、どの地域にも魅力があることや、それを活かして生活する人々が見えるようになりました。地域には課題も多いですが、それを魅力で補ったり活性化したりする努力があり、人々の問題意識は高いと思います。産品や観光資源も人々の活動が相まって魅力として周知されることを知り、これからはそうした地域への関心を寄せていきたいです。卒論ではタイの教育制度をテーマにして、できれば大学院でも研究を続けたいと思っています。

尾道市での地域課題演習 (右から二人目)



情報科学部 永井隆嗣さん



自分には興味のある科目ばかりだった

もともと地図を見ることが好きで、2年生になってこのプログラムを知り、積極的に履修しました。自分にとっては興味のある科目ばかりでした。「地域実践演習」では土砂災害に対応する伝達システムを実地に学び、情報技術を活かした地域貢献が可能なのだと実感できました。「観光情報学」でGPSデータを観光振興に結び付ける作業は面白かったです。その成果を宮島で発表することもできました。プログラムを通して地域の見方や課題認識が深まったと思います。卒業研究のテーマも地域に関わるものを模索中です。大学院に進んだ後は、出身地の広島市に住んで、自分が地域社会でできることを探していきたいと考えています。

広島市での地域実践演習 (左)



芸術学部 三坂笑花さん



地域を勉強することが制作のヒントに

1年生の時からプログラムを意識していました。広島や地域の科目に興味がありましたが、地域を勉強することが制作のヒントになると思ったからです。「地域課題演習」では、安芸高田の鹿の解体ジビエ体験では号泣しながらもおいしく食べている私がいきました。生き物の命をいただくことの意味を知り、後日、鹿革のプロダクトにも参加しました。地域には様々な魅力や発展する要素があって、それをデザインの力で形にし、伝えることができると感じました。それが「地域実践演習」での広島市基町ショッピングセンターのトイレデザインプロジェクトなど地域の視点からのデザインワークに繋がっています。社会貢献に熱心な地元の会社に就職して、地方から凄いデザインを発信する、そんな仕事に関われたらと思っています。

安芸高田市での地域課題演習 (右端)



いずれも
H28年度入学生

(2) 地域貢献特定プログラム履修学生のアンケート結果

地域貢献特定プログラムの履修による地域志向マインドの醸成効果に関するアンケート調査を、5科目において実施した(平成29年度は4科目)。

■地域志向マインドの醸成効果に関する調査

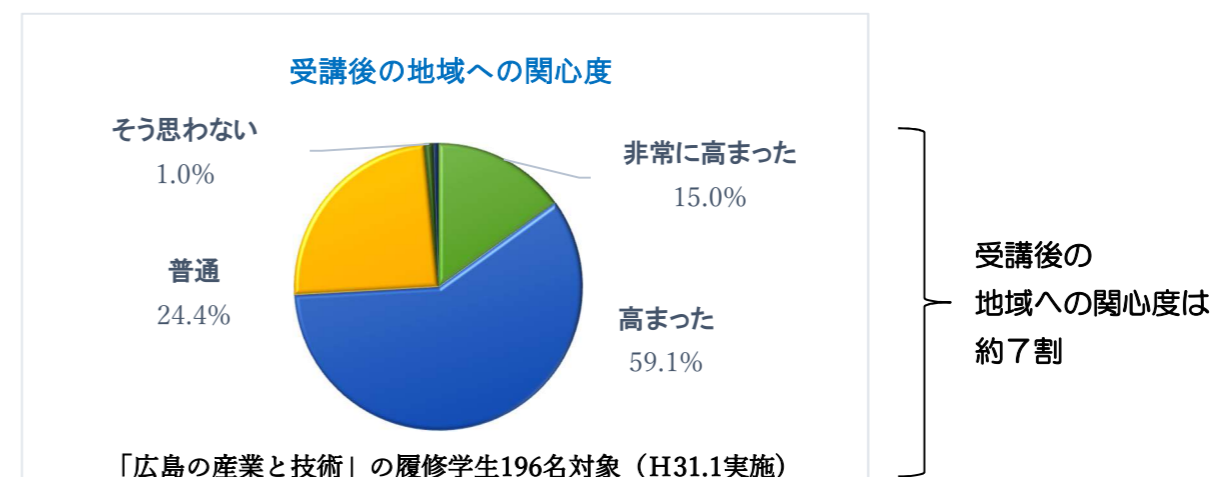
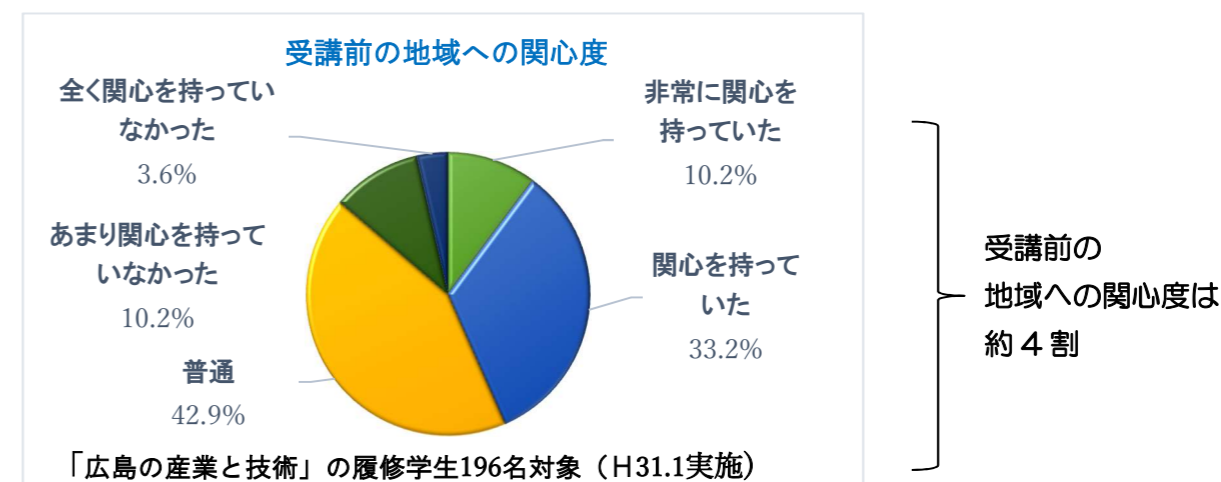
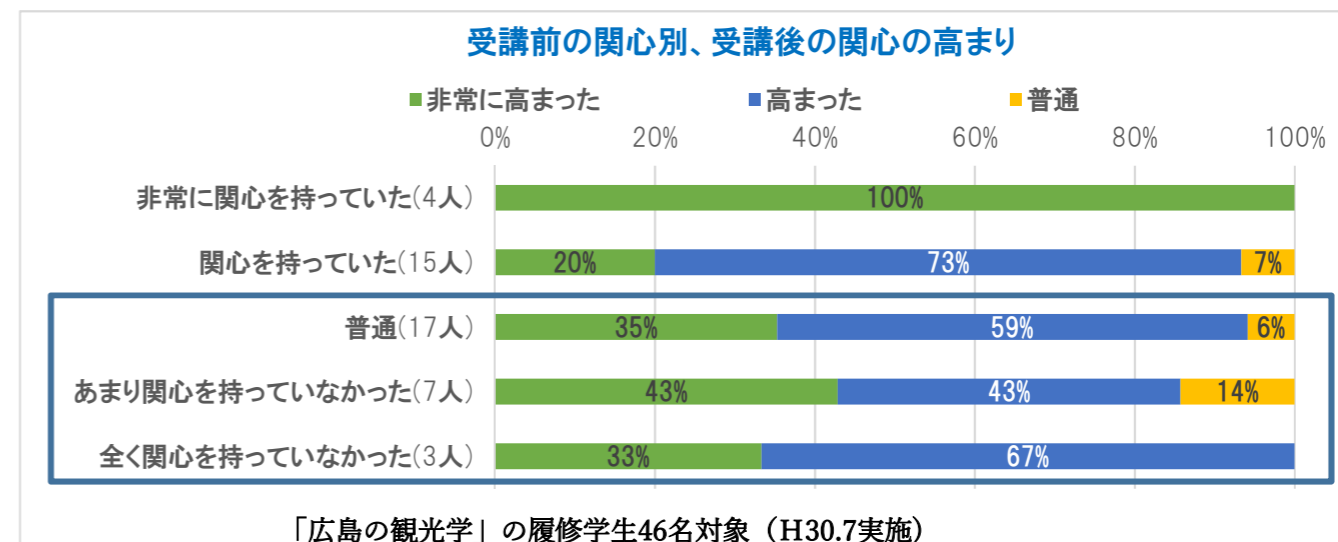
地域貢献特定プログラムの履修後に、講義の受講によって広島市を中心とした地域についての関心が高まったかどうかという意識の変化を把握し、履修前における地域への関心度と比較して、地域志向マインドの醸成効果とした。

アンケートを実施した科目は、全額共通系科目の「広島観光学」「地域再生論入門」「ひろしま論」「広島産業と技術」「地域課題演習」で、これらは選択必修科目であり、ほとんどの学生が履修する。

広島市を中心とした地域についての関心について、「非常に高まった」と「高まった」を合計した割合で見ると、約6割から約9割の学生において関心の高まりが確認できた(下の表)。

受講前の関心別にみる受講後の関心の高まりについて、「広島観光学」を例に記述すると、受講前から関心度が高い学生はさらに地域への関心を高め、受講前には「普通」「あまり関心を持っていなかった」「全く関心を持っていなかった」学生において、受講後にはそれぞれ94%、86%、100%が関心を高めたと回答し、科目の学習を通じて地域へ意識が向けられたことが確認できた(右上の表)。

科目名	回答学生 (履修数)	受講前の 地域への関心度			受講後の 地域への関心度		
		①非常に 関心を持っ ていた	②関心を 持っていた	①+②	①非常に 高まった	②高まった	①+②
広島観光学	46人 (54人)	4人 (8.7%)	15人 (32.6%)	19人 (41.3%)	17人 (32.0%)	26人 (56.5%)	43人 (93.5%)
地域再生論入門	52人 (75人)	8人 (5.4%)	20人 (38.5%)	28人 (53.9%)	15人 (28.8%)	31人 (59.6%)	46人 (88.4%)
ひろしま論	284人 (355人)	33人 (11.6%)	87人 (30.6%)	120人 (42.2%)	49人 (17.3%)	134人 (47.2%)	183人 (59.5%)
広島産業と技術	196人 (250人)	20人 (10.2%)	65人 (33.2%)	85人 (43.4%)	29人 (14.8%)	114人 (58.2%)	143人 (73.0%)
地域課題演習	40人 (54人)	6人 (15.0%)	16人 (40.0%)	22人 (55.0%)	13人 (32.5%)	23人 (57.5%)	36人 (90.0%)



(3) 主な科目の実施状況

① 「地域課題演習」

地域貢献特定プログラムにおいて、ステップ2「広島を感じる」科目として、「地域課題演習」を平成29年度に開講した。

この科目の目的は、事業協働地域である25の市町の持つ多彩な魅力や資源、行われている様々な取組などについて、学生が現地での知見や考察を深めることで、地域の特性や課題への理解を促し、地域志向のマインドを育てることを目指している。

平成30年度は、学生に提示する演習テーマを、地域のバランスや活動内容を考慮しながら10のテーマを設定した(平成29年度と同数)。学生の選択希望により、このうち7テーマを実施した。また、指導体制として、3学部から21名の教員があたることにし、地域の現場での指導を経験する機会とした。

■テーマ数 10テーマ設定し、7テーマを実施

■実施地域 広島市、呉市、竹原市、尾道市、
周防大島町、世羅町、三原市

■履修学生数 54人

演習テーマを設定した地域



現場で何を感じるか

地域を体験 魅力と課題を知る 地域課題演習

地域をキャンパスにした演習です。参加してみよう！
広島市を中心とした地域にはさまざまな魅力があり、人々の取り組みがあります。
この演習は、各グループで地域を訪ね、現地での体験を通して自らが見つけた課題を考察します。

第1回講義「地域課題演習の説明会」ぜひ来てください。
4月9日(月) 2時限 502講義室
担当教員からテーマごとに演習内容のプレゼンテーションがあります。[演習テーマ①～⑩は裏面]
(テーマの選択は第3回講義日まで受け付けます。)
問：社会連携センター(國本、吉岡、永留) ☎082-830-1842 shakai@office.hiroshima-cu.ac.jp

■「地域課題演習」のシラバス概要

履修対象 2年次(全学共通系科目、1単位)

代表教員 芸術学部教授・副学長 前川義春

演習担当教員 主担当10名、副担当10名

講義の概要

広島市を中心とした一帯の経済生活圏域は、市町ごとに多彩な環境や文化等を有している。この地域の魅力や資源、人々の取組などについて学習し、現地において知見や考察を深めることで、地域の特性や課題について理解することを目指す。地域を知るための入門演習とする。

到達目標

・演習を行う対象地域の状況について、魅力や課題に気づく力を身につける。

・グループワークにより、一定の成果を導き出すプロセスを習得する。

講義の内容

<全体でのガイダンス>

1回 演習の概要説明、テーマ説明、テーマの選択

2回 学習の進め方、現地での活動の方法、グループの編成

<テーマごとにグループでの学習・活動>

3～13回

(事前学習)テーマや地域への理解、活動目標の設定

(現地活動)1～2日程度の現地での活動

(事後学習)現地活動の整理

<全体での取りまとめ>

14・15回 グループでの演習の振り返り、全体で演習結果の共有(第1回発表会、第2回発表会)

【演習テーマ】

次の①から⑩までのテーマを実施する。

演習テーマの選択は希望による。希望者が3名に満たないテーマは実施しない。

(テーマ名、地域名、主担当教員名)

- ①「瀬戸内海の水産と魚の楽しみ方を知る」(広島市、呉市) 国際学部教授 山口光明
- ②「竹原市をPRする観光映像を作る」(竹原市・大久野島) 情報科学研究科准教授 島和之
- ③「しまなみ海道を自転車で走って行動情報を収集する」(尾道市・しまなみ海道) 情報科学研究科教授 竹澤寿幸
- ④「中島町・基町ツアー」(広島市) 芸術学部講師 中村圭
- ⑤「広島市内の河川環境を利用した、リバーツーリングの楽しみ方を知る」(広島市内・河川域) 芸術学部講師 藤江竜太郎
- ⑥「瀬戸内のハワイ周防大島の島暮らしを体験し、島移住の課題と魅力を知る」(周防大島町) 社会連携センター-特任助教 三上賢治
- ⑦「世羅高原の6次産業を訪ねる」(世羅町) 社会連携センター-特任教授 國本善平
- ⑧「離島の非日常性を体感する」(三原市・三木島) 社会連携センター-特任教授 佐藤俊雄
- ⑨「広島会社へ行こう2018」(広島市、東広島市、呉市、安芸高田市) 社会連携センター-特任准教授 吉岡研一
- ⑩「岩国錦帯橋エリアを探索し観光地としての課題を見つける」(山口県・岩国市) 社会連携センター-特任助教 植松敏美

■「地域課題演習」の履修状況

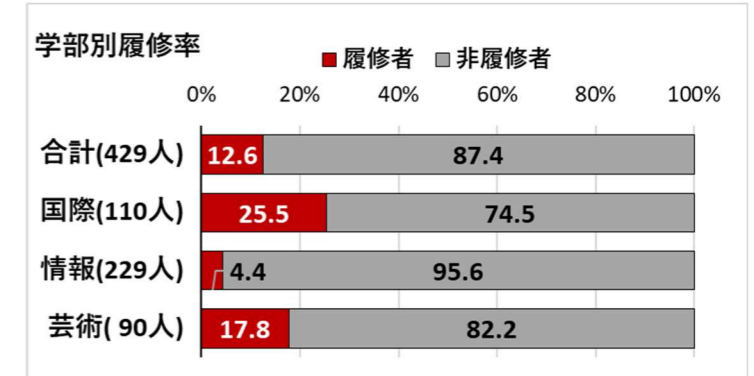
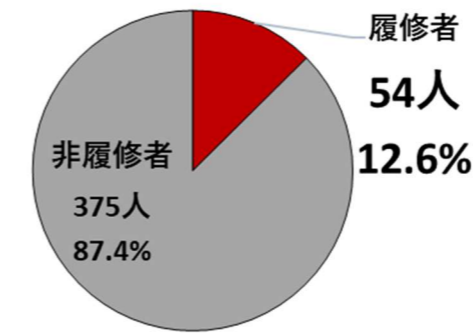
平成30年度に実施したテーマは以下の7テーマであり、54人が履修した(平成29年度は6テーマを実施し、60人が履修)。

履修率は2年生全体の12.6%。学部別履修者数では国際学部が多く、履修率(25.5%)も3学部では最も高い。一方、情報科学部は学生数が比較的多いにもかかわらず履修者数、履修率とも低い状況となった。男女別では女性が74.1%を占め、同じ学年の女性の割合41.4%に対して高い履修率となり、現地での活動や発表においても積極的な姿勢がみられた。

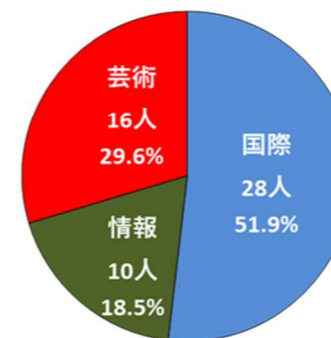
実施した7つの演習テーマ				
実施テーマ	地域	学生	主担当	副担当
①瀬戸内海の水産と魚の楽しみ方を知る	広島市・呉市	4人	国際学部 山口光明	情報科学部 長谷川義大
②竹原市をPRする観光映像を作る	竹原市	6	情報科学部 島和之	国際学部 高久賢也 情報科学部 齋藤充行
③しまなみ海道を自転車で走って行動情報を収集する	尾道市	17	情報科学部 竹澤寿幸	国際学部 山根史博 情報科学部 岩根典之
⑤広島市内の河川環境を利用した、リバーツーリングの楽しみ方を知る	広島市	8	芸術学部 藤江竜太郎	情報科学部 高野知佐
⑥瀬戸内のハワイ周防大島の島暮らしを体験し、島移住の課題と魅力を知る	周防大島町	6	社会連携センター 三上賢治	情報科学部 岩根典之
⑦世羅高原の6次産業を訪ねる	世羅町	8	社会連携センター 國本善平	芸術学部 青木伸介
⑧離島の「非日常性」を体感する	三原市	5	社会連携センター 佐藤俊雄	国際学部 井手吉成佳



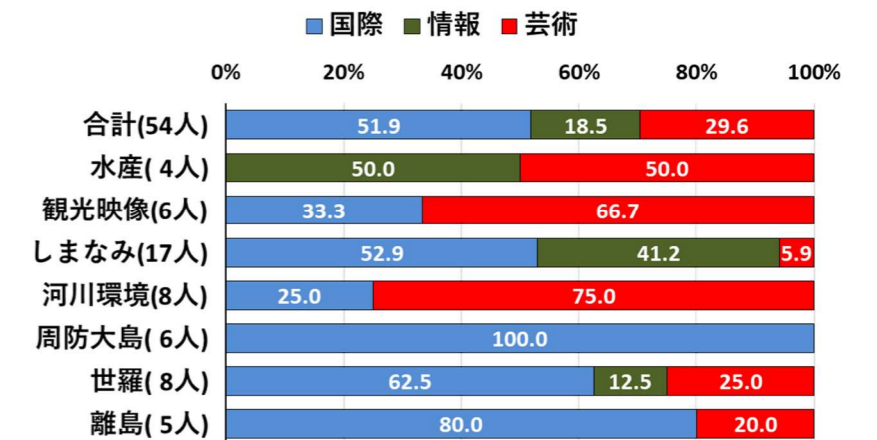
2年生全体(429人)の履修率



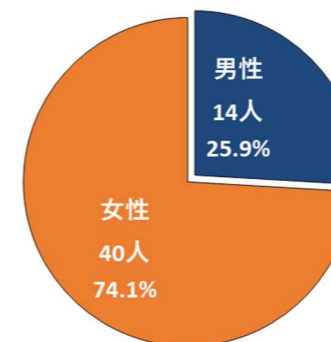
学部別履修者の割合(全体)



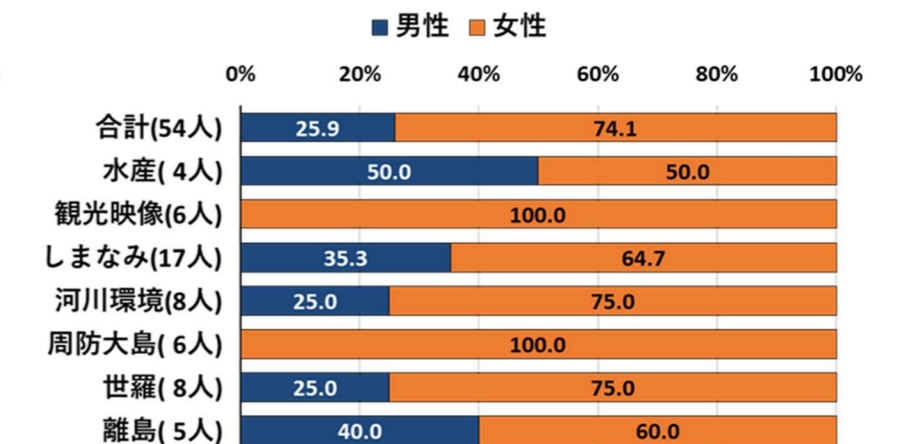
テーマ別履修者の学部



男女別履修者の割合(全体)



テーマ別履修者の性別



■「地域課題演習」各テーマの実施内容

7つのテーマ(7地域)で多彩な現地活動・学習を実施した。

瀬戸内海の水産と魚の楽しみ方を知る	竹原市をPRする観光映像を作る	しまなみ海道を自転車で走って行動情報を収集する	広島市内の河川環境を利用した、リバーツーリングの楽しみ方を知る	瀬戸内のハワイ周防大島の島暮らしを体験し、島移住の課題と魅力を知る	世羅高原の6次産業を訪ねる	離島の「非日常性」を体感する
<p>瀬戸内海の水産の状況や魚の生態を学び、近海魚「チヌ・フォアグラハギ」を対象にしながら、バーチャルリアリティの技術を活用した瀬戸内の魅力の発信について考える。</p> 	<p>竹原市の文化や産業、大久野島の歴史や自然などを、新しい映像技術を用いて収録・編集・発信し、新しい角度から魅力的に伝えることを体験する。</p> 	<p>しまなみ海道でサイクリングをする観光客が増えていることを理解する。体験型観光の重要性を認識するとともにGPSロガーで行動情報を収集する体験をし、観光ビッグデータへの理解を深める。</p> 	<p>広島市内中心部の基町護岸等を起点に、近年、都市型サーフカルチャーとして注目されるスタンダップパドル(SUP)を用いて、広島市内の河川環境の魅力をフルに楽しむ。広島市内の護岸オープンカフェなどの活用事例を体験から学び、身近な河川の新たな活用方法や魅力を学ぶ。</p> 	<p>山口県周防大島が瀬戸内のハワイと呼ばれるようになったハワイ移民の歴史から現在の移住促進の課題と成果について学ぶとともに、ブルーツーリズム(SUP、カヤック、漁業など)を通じた島暮らしの魅力を体験する。</p> 	<p>世羅町は農産物の生産・加工・商品化・販売に力を入れた6次産業化のプロジェクトが進められ、その取組は全国的にも高い評価を受けている。また、住民や移住者による農家民泊やカフェなど、様々な活動を生み出している。そうした「6次産業のネットワーク」を学習し、現地での体験を通して、さらなる活性化に向けた課題について考える。</p> 	<p>三原市の佐木島をフィールドとして取り上げ、島の自然環境の魅力を体感するとともに、過疎化や暮らしの実態に触れる。佐木島は小さい島ながら長年トリアスロンで地域を盛り上げてきた。近年では移住者が起業するなど、離島の再生につながる動きもみられる。離島を訪れることで、瀬戸内海の風景の魅力の一端に触れるとともに、地域活性化に向けた課題を考える。</p> 

■ 「地域課題演習」の受講後の意識の変化

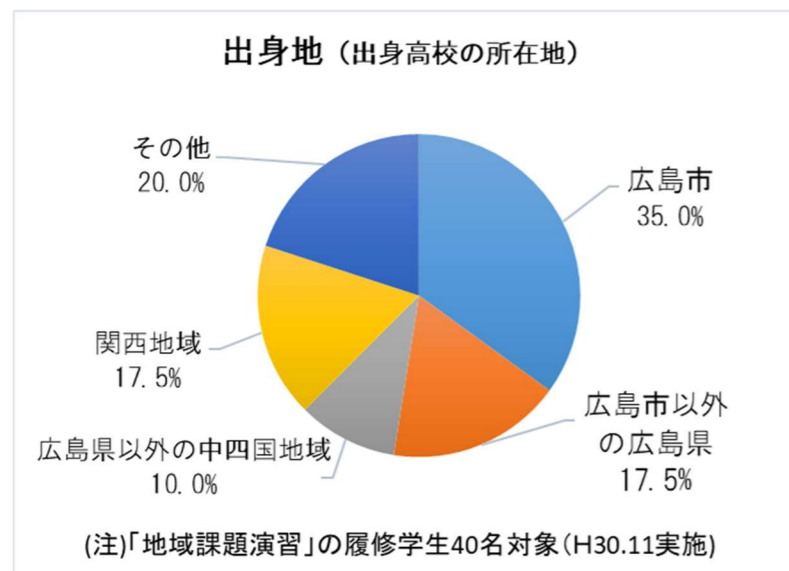
学生は6つのテーマに分かれて、それぞれの地域の魅力や課題の学習、課題解決への提案などを行い、合同発表会で活動や経験を共有することにより、地域への認識を深めた。

学生へのアンケート結果による地域への関心度については、受講前は「非常に興味を持っていた」と「興味を持っていた」の合計が55%であったのに対し、受講後は「非常に高まった」と「高まった」の合計が90%となり、35ポイント上昇した。また、出身地別の地域への関心度については、広島県外の出身者が県内出身者よりも関心を深めたことがわかる。

アンケートに現れた個別のコメントでは、「地域で積極的に活動したい」「地域に貢献できることは何か考えたい」などが見られ、総じて、地域への入門演習として、地域志向マインドの醸成に顕著な効果があったと言える。

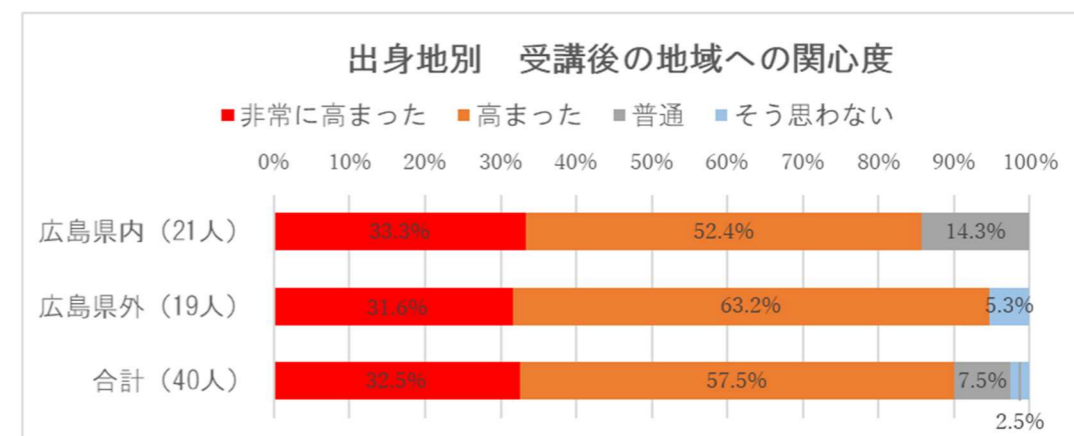
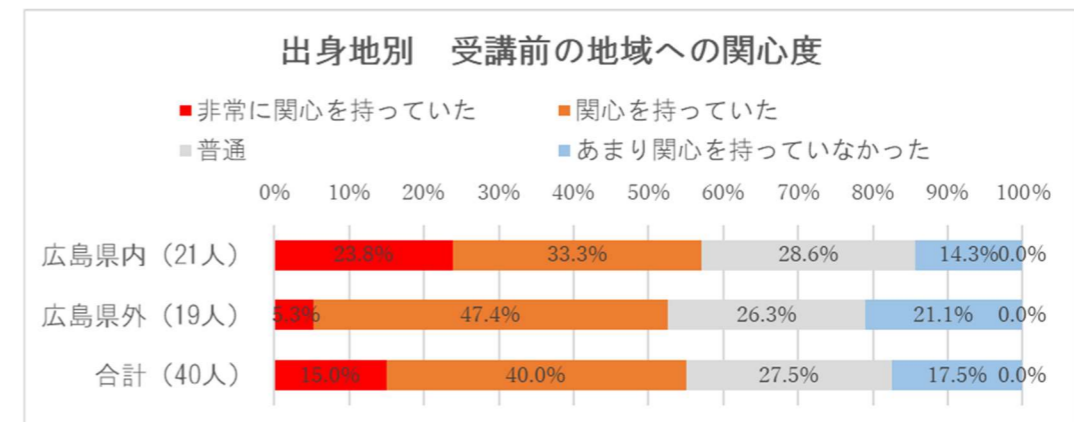
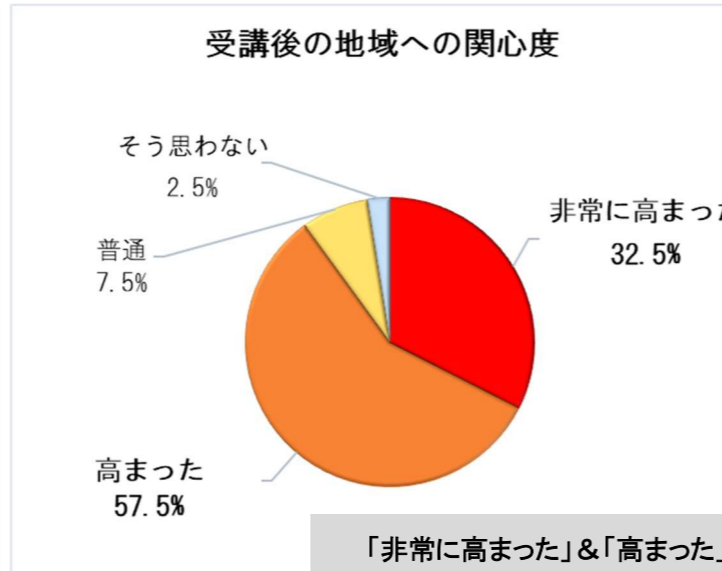
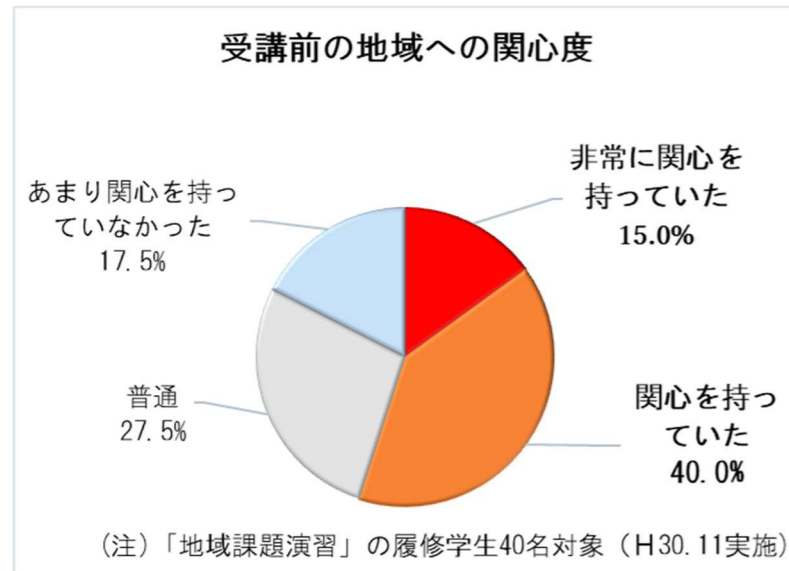


合同発表会を2回に分けて開催した



合同発表会後のアンケートより
地域への向き合い方についての主なコメント

普段の生活では気付けない発見があった。
地域の現状や歴史を知り、関心があった。
どう学び、生きるか、選択肢が広がった。
地域をもっと知って、積極的に活動したい。
自分が地域に貢献できることは何か、考えたい。
広島が好きになってきた。



② 「地域実践演習」

「地域実践演習」は、COC+地域貢献特定プログラムのカリキュラムシーケンスにおいて「広島を問う」科目として位置づけ、専門教育科目として各学部の専門性や知見とを生かして地域の魅力を引き出し、より高めていく取組や、地域の課題解決を実践的に試行する演習として開設した。

(国際学部は既存の「専門演習」の一部を「地域実践演習」として位置づけ、情報科学部と芸術学部は新規に開講)。

■ 授業設計の方針

学部専門教育科目として、「全学共通系の地域志向科目」での学習や、各学部の専門性を生かして、広島市とその周辺地域を対象に、地域再生や観光振興など地域の課題解決に向け、あるいは地域性をテーマとして、PBL(課題解決型学習)等の手法により、実践的な演習を行う」

(COC+教育プログラム専門委員会及びカリキュラム編成 WG 合同会議で検討、準備を行った。授業設計の方針としてこととし、各学部教授会を通じ、担当教員の決定及びシラバスの作成を進めた。)

■ 対象学年・単位数 3年・1単位

■ 設定した科目数

国際学部 2、情報科学部 4、芸術学部 1(3専攻)

■ 実施した科目数

国際学部1、情報科学部 2、芸術学部 1(3専攻)

■ 履修学生数 34人

学部	学科	演習の概要	履修学生数	担当教員
国際学部	国際学科	社会学の観点から祝島をフィールドワーク 他の離島同様、過疎と高齢化が深刻で、そのうえ原発計画という国策が未来を拘束してきた。そのなかで、島の人々はどのように過去を見つめ、未来を創り出そうとしているのか、島を見て、人々の話を聞いて考える。 (山口県上関町)	9	湯浅正恵教授 (社会学)
情報科学部	情報工学科	災害時の早期避難を促す伝達システムの開発 広島市における土砂災害に着目し、住民へ早期避難を促すための災害関連情報を効率的に配信させることに取り組む。実際に地域の避難場所周辺において、ネットワークコースの研究室にて開発している草の根災害情報伝搬システムの端末を利用して、情報伝搬特性を評価する実験を行い、得られたデータを解析する。(広島市)	10	西正博教授 (通信工学) 河野英太郎准教授 (ネットワークソフトウェア)
	知能工学科	音声対話技術でペッパーが広島を観光案内 情報科学の専門性として音声対話技術とロボットプログラミングを扱う。実践的な課題として「ペッパーに広島の話させよう！カーブの話でも OK」を取り上げ、地域情報として広島地域の観光などを扱う。(広島地域)		竹澤寿幸教授 (音声言語情報処理) 黒澤義明助教 (発話意図理解)
芸術学部	美術学科 デザイン工芸学科	地域の特性を生かした作品制作 (彫刻、日本画、視覚造形) 各担当教員の指定する対象地域において、その地域の特性を理解し、培ってきた専門的知識や技術・方法等を活用して、地域の魅力の創造や課題解決に取り組む。 (北広島町、廿日市市、広島市)	19	伊東敏光教授 (彫刻) 荒木亨子准教授 (日本画) 中村圭講師 (視覚造形)



①



②



④



⑥



③



⑤

- ① 国際学部 祝島フィールドワーク
- ② 情報科学部 災害情報の伝達システム
- ③ 情報科学部 ペッパーの広島観光案内
- ④ 芸術学部 彫刻専攻・北広島町モニュメント
- ⑤ 芸術学部 日本画専攻・宮島日本画制作
- ⑥ 芸術学部 視覚造形・基町M98join 展示

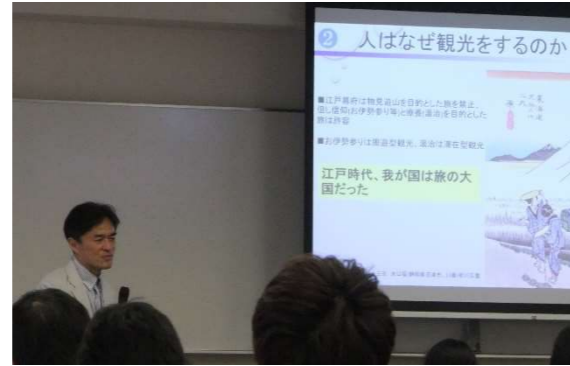
③ 「広島県の観光学」

本講義は、COC+事業のテーマである「観光振興」をカリキュラムとして具体化したものであり、28年度に開講した。COC+のカリキュラムシーケンス上では、ステップ1の「広島を知る」に位置づけられ、瀬戸内海、中国山地、それらに近接する都市群という多様な資源に恵まれた本地域の魅力と可能性を、観光という側面から理解する基礎科目である。こうした学びを踏まえ、学生達が本地域の現場に出向いた学びを行い、本地域への関心を高め、その後の就職や定住意識の涵養へとつなげていく役割を持つ科目である。

近年急増している外国人観光客は、人口減少下の我が国において、輸出産業と同等の経済効果をもたらす成長産業として位置づけられる。とりわけ地方においては、観光は地域の経済的・文化的な活力源としての役割が期待されている。このため、インバウンド観光の動向とインパクトを適切に理解するとともに、来訪者を誘う地域資源の魅力、地域資源に付加価値を加える観光施策、観光の地域振興効果等について学修する構成としている。

講義内容は、事業協働地域である25市町の意見聴取と現地調査を基に構築されており、30年度においては、観光施策の展開、地域振興効果の最新動向を踏まえ、改定した。

履修者数は56人で、授業満足度は4.5であった。(注)5段階評価、全学共通系科目平均は4.0(30年度前期)



■「広島県の観光学」の実施内容

担当教員 社会連携センター特任教授 佐藤俊雄

履修者数 56人

講義のねらい

- ・観光振興の基となる地域が有する自然、歴史文化、生活文化等の地域資源の魅力と可能性についての理解を養う。
- ・地域固有の資源に着目した先進的な観光施策や事業、及び観光動向と地域振興効果についての理解を養う。
- ・人はなぜ観光をするのか、観光の要素、観光を支える仕組み等の基礎知識を習得する。

講義の構成

25市町の観光を、海の観光、森の観光、都市の観光という3つの括りで捉え構成した。

[海の観光]

世界遺産・厳島神社と宮島、港町の形成と町並み観光、海辺空間の魅力、海の体験型修学旅行、アートによる観光振興、戦争遺産と平和を考える、瀬戸内海を世界に売り出す

[森の観光]

森の癒しのプログラム、森の体験観光、民俗芸能の観光化、農村環境の観光化

[都市の観光]

水辺のオープンカフェ、ピースツーリズムとMICEによる集客、伝統文化と観光

観光の基礎となる地域資源



観光動向と地域振興効果を客観的に把握

偏在する外国人宿泊者数



2つの世界遺産の連携によるインバウンド増加



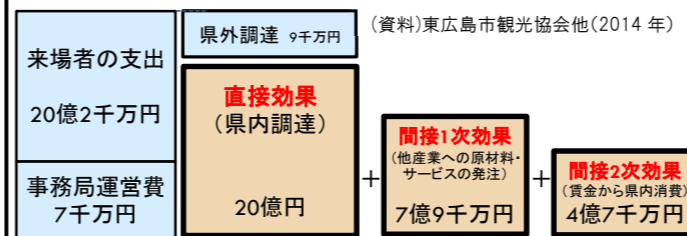
広島では2つの世界遺産の相乗効果により、瀬戸内のインバウンド観光拠点性が強化、滞在型への転換が課題

広島ベイエリアでは体験型修学旅行が成長中



広島ベイエリアは、平和学習との組み合わせにより、全国有数の体験型修学旅行の受け入れ地に成長中

西条酒まつりの経済波及効果



経済波及効果 (広島県内の生産誘発効果)32億6千万円

西条酒まつりは約25万人を集客し、県内の経済波及効果は約33億円、効果を高めるため滞在環境整備が課題

地域固有の資源に着目した先進的な観光施策

瀬戸内の重伝建の空家を宿泊施設・レストランに再生



空家を低廉なゲストハウスや1日1組限定の貸し切り宿に再生し、地域の経済的波及を高める取り組みを移住者が推進

神楽を広島観光に活かす

神楽を広島観光に活かす

街と酒のど真ん中、神楽を楽しむ水曜の夜
広島県民文化センター
広島神楽定期公演
上演予定表
平成30年4月4日〜12月26日

広島市の中心部で神楽の定期公演
場所：県民文化ホール
開催日：4月〜12月の毎週水曜日
時間：19時開演〜20:45
料金：1000円

広島県の夜観光の活性化

全38回
北広島市17回
広島市12回
三次市3回
廿日市市2回
安芸高田市2回
安芸太田町2回

演劇性の高さで注目される芸北神楽を広島の都心部で上演することで広島市内での観光滞在と芸北地域への神楽観光を誘う

先進的事業に加え、隠れた資源の掘り起こしも紹介



水辺のオープンカフェは全国の先駆け(広島市)



商店街の長屋をゲストハウスに再生して観光拠点化(尾道市)



溪流体験をプログラム化して体験観光として販売(岩国市)



棚田の景観を楽しめるカフェを開設(安芸太田町)

④ 「地域再生論入門」

本講義は、COC+のカリキュラムシークエンス上では、ステップ1の「広島を知る」に位置付けられる科目であり、平成29年度に開講した。人口減少・超高齢化の下、地方は厳しい状況におかれているが、地域の工夫により生き生きとした地域再生がなされており、その方法論を伝えることに主眼を置いている。

都市と中山間地域が近接している本地域は、両者の魅力をコンパクトに享受できるという大都市圏にはない優位性を持っている。このため、都市と中山間地域のそれぞれにおいて、持続性のある暮らしの構築と産業振興を両輪として展開していくことで、我が国の地方創生のモデルともなりうる条件を備えている。

講義内容については、25市町への意見聴取と現地調査、近隣地域の先進事例調査等により構築し、平成30年度には地域の取組動向を踏まえ、講義構成の一部改定を図るとともに、最新動向を反映したものとした。本講義のキーワードは、都市側においては「コンパクトシティ」「都市型産業」、中山間地域においては「小さな拠点とネットワーク」「地域資源活用による産業振興」であり、両者に共通するものとして「地域再生の主役は人」「広島広域都市圏構想」という概念を設定した。履修者数は80人で前年度(22人)より大幅に増加し、授業満足度^注は4.5であった。

(注) 5段階評価、全学共通系科目平均は4.0(30年度後期)

■「地域再生論入門」の実施内容

担当教員 社会連携センター特任教授 佐藤俊雄
履修者数 80人

講義のねらい

- ・都市と中山間地域が近接している強みをもつ広島都市圏等における、多様な地域再生について理解する。
- ・持続性のある地域づくりのためには、都市と中山間地域が有するそれぞれの地域資源を活かした産業振興【しごと】、コンパクト+ネットワーク型の地域づくり【暮らし】、それらを担う人材の育成と連携【ひと】が大切であることを習得する。

講義の構成 (注)着色は30年度の新設コマ

【都市】

<コンパクトシティ> 広島の都心再生、日本初のボールパークによる広島の活性化、広島市都心部における賑わいづくりのための公共空間の活用、リノベーションまちづくり、空家再生による尾道の再生

<都市型産業> 起業の拠点構築と新商品開発

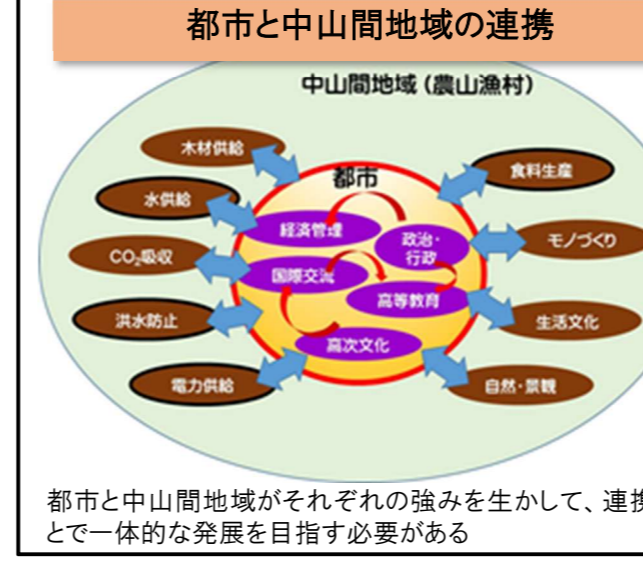
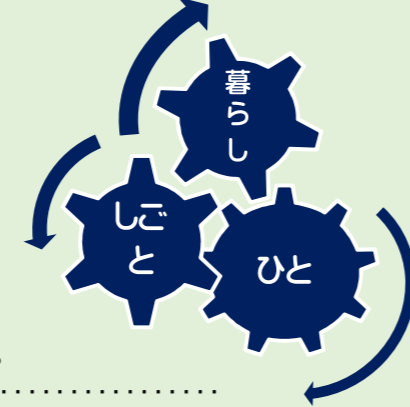
【中山間地域】

<小さな拠点とネットワーク> 小さな拠点とネットワーク、移住による中山間地域の再生

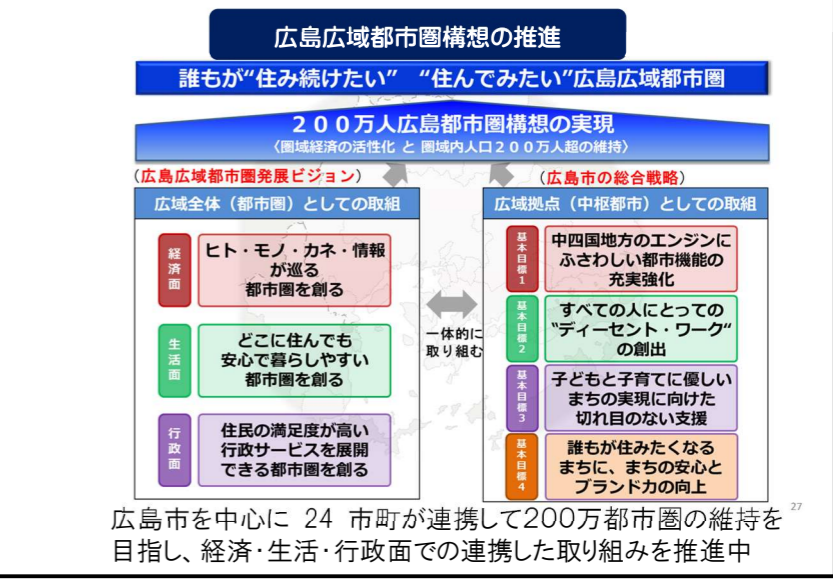
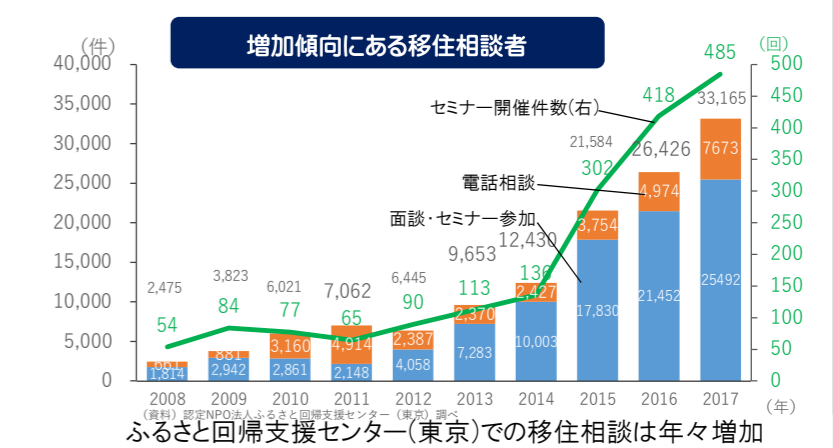
<地域資源活用による産業化> IT企業誘致による中山間地域の再生、六次産業化等による農業の再生、高付加価値化と地域内循環による林業の再生

【共通】 地域再生の主役は「人」、**広島広域都市圏構想の推進**

基本となる地域再生の考え方



都市と中山間地域がそれぞれの強みを生かして、連携することで一体的な発展を目指す必要がある



広島市を中心に24市町が連携して200万都市圏の維持を目指し、経済・生活・行政面での連携した取り組みを推進中